令和５年３月１６日（木）卒業式

新しいスタイルの学校生活・学校行事の創造

（前略）１７９名の３年生、御卒業おめでとうございます。心からお祝い申し上げます。卒業に当たり、皆さんが本校に入学した３年前を思い起こして下さい。新型コロナウイルス感染症から皆さんを守るため、全国の学校が一斉に臨時休業となりました。本校でも、入学式は挙行できたものの、学校生活は分散登校から始まることになったのです。その後の学校生活では、感染拡大防止対策としての３つの密「三密」を避けるために、授業でのグループ活動の自粛や給食の黙食など通常ではない制限がありました。学校行事や部活動の大会も例外ではありません。本日の卒業式であっても、１，２年生は体育館で皆さんの晴れ舞台を観ることができませんでした。そう考えると、皆さんの中学校生活はまるまるコロナ禍にあり、何かしらの制限があり続けた３年間だったのだと改めて思い至ります。

それでも、「決して可哀想な３年間ではない」と、自信をもって言うこともできます。皆さんは制限がある中でも、仲間や先生と共に知恵を出し合い、力を合わせ、新しいスタイルの学校生活や学校行事を創り上げてきました。３年ぶりの修学旅行、学年という枠をこえてリーダーシップを発揮した体育祭、ステージ上で個性を輝かせたＳＵＮフェスタ…今でも皆さんの笑顔が目に浮かびます。今できることに対して、真っ直ぐに全力で取り組む姿が思い出されます。部活動やコンクールなどでの活躍も、日々の学校生活での成長も、皆さんだからこそ成し得たことなのだと思っています。高校野球、夏の甲子園で優勝したチームの監督が優勝インタビューで発した「青春って、すごく密なので」という言葉に脚光が当たりました。本当にその通りです。皆さんの場合には、３年間の学校生活を通して、互いの心が「密」につながり合っていたのだと感じます。

これからの時代は、グローバル化の進展や人工知能（AI）の飛躍的な進化など社会は急激に変化し、予測困難な時代と言われています。このような時代にあっては、様々な変化に積極的に向き合い、周りの人と協働して課題を解決していく力が必要です。よりよい社会を自分たちの力で創り上げていかなくてはいけないのです。明治時代の歌人である与謝野晶子は、創り上げるという意味の「創造」について次のように述べています。「創造は過去と現在とを材料としながら新しい未来を発明する能力です」。皆さんは、このような能力を身に付けるべく、コロナ禍の３年間だからこその学習を重ねることができました。ですから、長い目で見て「決して可哀想な３年間ではない」と思うのです。

新しい未来に向かっていく皆さんにとって、三尻中学校は、心を休め、過去に立ち返る場所となります。総合的な学習の時間に取り組んだ「三尻中の魅力再発見」では、地域の方やこれから入学する小学生に紹介する目的で、三尻中の学校行事の特色や施設、歴史などについて調べ、発表しました。発表を聞いていると、三尻中を愛し、次の世代に伝統をつなぎたいという思いを感じることができました。年月を経て、いつか振り返ったとき、皆さんは、必ずや思い起こされる歴史的な卒業生になるにちがいありません。新しいスタイルの学校生活や学校行事を創造してくれた皆さんに感謝します。（中略）

卒業生は、この３年間を象徴するマスクを今、取り外しています。明るい未来に向かって、第一歩を踏み出す卒業生に、幸多かれと祈り、式辞といたします。

熊谷市立三尻中学校長　　田沼良宣